

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 3月 24日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14 時 50 分

訪問先事業所名 (都道府県)	びろうの樹 (鹿児島県)
-------------------	-------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u> 氏名 <u>浜田 千里</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者・計画作成担当者</u> 氏名 <u>脇島田博子・野間悦子</u> ヒアリングを行った職員数 3名

※記入方法

●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。

●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

●外部評価項目は30項目です。

○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。

○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4676900113号		
法人名	医療法人 共生会		
事業所名	びろうの樹		
所在地	鹿児島県志布志市有明町野井倉8031番地1 (電話) 099-477-2662		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年3月24日	評価確定日	平成20年4月11日

【情報提供票より】(20年3月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 1月 22日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤8人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての ~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額 800 円	その他の経費(月額)	日額 500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	250 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月4日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1		要介護2		4名	
要介護3	3名	要介護4		2名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 87歳	最低	76歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	びろうの樹脳神経外科、飯山歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人の敷地内に位置し、医療連携が充実しており、入居者、家族は安心して暮らせるホームである。職員は、入居者一人ひとりの言葉の奥にあるもの、言葉にできないことなど思いの把握に努めている。入居者と職員は馴染みの関係ができており、入居者の得意なことやできることを支援しながら、入居者から学び共に支えあう関係作りがなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を活かし、入居者と職員との馴染みの関係づくりなど考慮した職員配置や緊急時、感染症などの研修等の充実など具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の一項目ずつの内容を職員全員で確認しあいながら、自己評価を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの現状や評価の報告や話し合いを行っている。ボランティア要請や災害時の地域住民の協力依頼など、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関には意見箱が設置してある。職員は、家族の来訪時に意見が出やすいように家族との関係づくりに配慮している。また、家族が参加する行事の機会を設け具体的な意見を引き出せるように工夫し、その意見を活かせるように取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、清掃作業や地引網の見学、地域での津波災害訓練等に参加している。また、自治会の総会等を利用して、気軽に訪問できることやグループホームの理解や災害時の協力の依頼を行うなど地域との連携にむけ取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 中村 朋美 / 調査員 浜田 千里

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時の理念を見直し、入居者が、毎日楽しく、家族や地域住民とのふれあいを大切に安心した生活ができるように、職員で見直した理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の新人採用時には、理念から説明し研修を行っている。また、日々の業務の中で気付きを職員同士で話し合いながら、理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、清掃作業や地引網の見学などの行事に参加している。また、自治会の総会等を利用してホームの説明など行いながら、地元の人々と交流できるように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、評価の意義を理解し、自己評価は、職員全員で内容を確認しながら行い、評価を活かし、馴染みの関係づくりや研修等の充実など具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの現状や評価の報告や話し合いなどを行い、ボランティア要請や災害時の地域住民の協力依頼など、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と、随時、相談連携を図りながら、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書に一筆添えたり、ホーム便り（季節毎）の発行で定期的に暮らしぶりを報告している。家族の来訪時や電話連絡などで随時、近況や健康状態を報告している。金銭管理の報告は、入居者や家族の状況に合わせて取り決めがなされ、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱が設置してある。職員は、家族の来訪時に意見が出やすいように家族との関係づくりに配慮している。また、家族が参加する行事の機会を設け具体的な意見を引き出せるように工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの関係を重視し、異動や離職を最小限に抑えるよう配慮しており、職員と入居者は馴染みの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、法人内やホーム内での研修や、外部研修に交替で参加し、報告書や伝達研修を行っている。働きながら、職員同士で教えあうなどしながら資格習得している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会やケアマネジャーの研修などに積極的に参加し、他の同業者と気軽に相談連携を図りながら、サービスの質を向上させていく取り組みをおこなっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通所や短期入所を利用してから入居するケースが多く、本人が安心して入居できるように取り組んでいる。やむを得ず、すぐの入居に至った場合には、じっくり話を聞き、入居者同士で話すなど工夫し早く安心して生活できるように十分に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から、昔の話や、調理など学び、入居者ができることや得意なことを支援しながら共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの日々の会話や表情などを大切にしながら、入居者本位に把握できるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の意向を大切に、家族、職員の意見も反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング、評価を定期的に行っている。状況変化に応じて、随時、本人、家族、職員の意見を反映させた介護計画を作成している。		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	24時間体制の医療連携体制 や入居者、家族の意向や状況 に応じて、鍼灸師の訪問によ るマッサージや拘縮予防の支 援などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	本人、家族の希望するかかり つけ医であり、相談連携を図 りながら、適切な医療を受け られるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	本人の状況が変わってきた 時点で、本人、家族、医療機 関などと状況に応じて話し 合いながら方針を共有してい る。		重度化や終末期にむけた 対応指針を定めることが 望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライ バシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の 個人情報の取り扱いをして いない	入居者一人ひとりの尊厳 や、プライバシーに配慮 した言葉かけや対応に心 掛けている。また、個人 情報の取り扱いも充分に 留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を 優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切 にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそ って支援している	起床や食事、入浴、外出 などできる限り、入居者 一人ひとりのペースを大 切にしている。職員は、 更に、入居者一人ひとり にあった支援を行うよう 取組んでいる。		

びろうの樹

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に好みを聞き、季節や行事の食事など考慮しながら、「煮しめづくり」や、片付けなど、できることを入居者にしてもらい、職員と一緒に食事を楽しむことのできる支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を基本としながら、希望に応じて入浴できる。入居者一人ひとりに応じた入浴に配慮し、入居者がゆっくり入浴ができるように心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、踊り、散歩、レクリエーションなど、一人ひとりに添った役割や好み、楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物などできるだけその日の状況や希望にそって外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけていない。自由を束縛しないように配慮しながら、入居者の動きを把握している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防避難訓練、消防署立会いのもと避難訓練、消火器使用法、夜間想定での訓練など実施し、地域住民にも協力が得られるように働きかけている。地域であった津波想定訓練にも参加している。備蓄等にも配慮がなされている。		

びろうの樹

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状況に応じて、とろみや刻みなど工夫し、食事摂取量や水分摂取量も大まかに把握がなされている。随時、栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、熱帯魚が泳ぐ水槽、ソファやコタツなど置かれ、居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、布団や洋服掛け、人形や家族の写真など持ち込まれ、入居者に応じてベット位置など工夫し、居心地良く安全に過ごせるようにしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。